

地球生きものプロジェクト一覧
(平成 23 年 2 月 1 日現在:計 31 件)

地球生きもの委員会の方針に沿い、国際生物多様性年及び国際生物多様性の日の普及に寄与するため、同委員会委員が実施する事業を「地球生きものプロジェクト」とし、それぞれにプロジェクトチームを設けて実施。

1. 記念行事

<p>平成 21 年度 野生動物写真コンテスト～自然界に生きる野生動物たち～ (平成 21 年 6 月～平成 22 年 1 月)</p>
<p>実施主体:財団法人自然公園財団</p>
<p>野生動物写真コンテストの入賞作品全 32 点の巡回展を、全国各地のビジターセンター等で開催。</p>
<p>「国際生物多様性年オープニング記念行事」(平成 22 年 1 月)</p>
<p>実施主体:生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会</p>
<p>国連の定めた国際生物多様性年である 2010 年の幕開けを記念するとともに、10 月の COP10 に向けた開催気運を盛り上げるため、国際生物多様性年オープニング記念行事を開催。</p>
<p>国際生物多様性年記念イベント(平成 22 年 4 月)</p>
<p>実施主体:環境省</p>
<p>国際生物多様性年の気運を高めるため、2010 新宿御苑みどりフェスタの開催に合わせ、自然環境功労者大臣表彰式および、地球いきもの応援団等による行動宣言式を実施。</p>
<p>「2010 年国際生物多様性の日・COP10 開催半年前記念行事」(平成 22 年 5 月)</p>
<p>実施主体:生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会</p>
<p>国連の定める「国際生物多様性の日」および、COP10 の開催半年前を記念した事業を開催し、生物多様性や COP10 について県民・市民への周知を図るとともに、COP10 の開催気運を盛り上げた。</p>
<p>第 1 回いきものにぎわい企業活動コンテスト～企業の生物多様性保全等実践活動顕彰～ (平成 22 年 6 月)</p>
<p>実施主体:経団連自然保護協議会、(社)国土緑化推進機構、(社)日本アロマ環境協会、(財)水と緑の惑星保全機構</p>
<p>日本の企業の里山保全・再生といった豊かな生物多様性の保全や持続可能な利用等の実践的な活動を国内外に発信するとともに、特に優れた企業の実践活動を顕彰。</p>

COP10 あいち・なごや「絵画・写真コンテスト」(平成 22 年6~9月)

実施主体: 生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会、読売新聞社、
愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

絵画写生や写真撮影を通じて、より多くの人々が身近な自然や生き物の素晴らしさに気づくきっかけとするとともに、生物多様性や COP10 についての認識を高めてもらうため開催。

生物多様性親子セミナー (平成 22 年6~10 月)

実施主体: 愛知県

COP10 開催を契機に、子どもたちの生物多様性への理解を深めるために、愛知県出先機関の 6 つの県民事務所等が市町村等と連携し、地域ごとに地域ならではの「素材」を活用した生物多様性に関する親子向けイベントを実施。

「COP10/MOP5 カウントダウン 100」(平成 22 年 7 月)

実施主体: 生物多様性条約市民ネットワーク

COP10 開催 100 日前イベントの総称。「一日でわかる生物多様性」をテーマに市民が手掛ける最大級の普及啓発イベントとして国際生物多様性年を盛り上げた。

サマーコンファレンス 2010「中小零細企業復活フォーラム」

第一部 ~自然の恵みを活かした新しい企業経営とは~ (平成 22 年7月)

実施主体: 生物多様性条約市民ネットワーク

地域に必要とされる中小零細企業が、生物多様性を新たなビジネスチャンスとして取り組み、今後の経営や地域の活性化につなげるため、企業が生物多様性に取り組む意義と意味を伝えた。

平成 22 年度 野生動物写真コンテスト~自然界に生きる野生動物たち~

(平成 22 年 7 月~平成 23 年 1 月)

実施主体: 財団法人自然公園財団

人の暮らしに深く関わってきた里地里山や海辺から国立公園などに代表される豊かな自然の中で生きる野生動物の姿を写真によって記録していこうという願いを持って実施。併せて、国際生物多様性年、COP10 開催を広報。

生物多様性条約グローバル対話フォーラム (平成 22 年7月)

実施主体: 生物多様性条約市民ネットワーク

生物多様性条約市民ネットワークは、COP10 が市民の声が届く市民の条約であることを実現するために、条約や政府に対して提言活動を行っており、その内容や、交渉の途中経過、成果などをこのフォーラムを通じて共有。

いしかわの里山里海展（平成 22 年 8 月）

実施主体：(社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議、石川県、
環境省中部地方環境事務所

里山・里海の様々ないのちのつながりや、そこから日々得ている多くの恵みを、楽しい「体験」やおいしい「食」を通して、生物多様性とは何かを学ぶ。里山里海がもたらす、さまざまな恵みや生きものと共生していく大切さを発信。

いしかわの里山里海 生物多様性シンポジウム（平成 22 年 10 月）

実施主体：石川県、石川県土地改良事業団連合会

里山・里海の利用保全をとおして、人間は生きものの中でのつながりの中で生活していることに気づき、どのような行動が求められるかを考える機会とすることを目的としたシンポジウムを開催。

COP10「あいちのいのちいただき隊」生物多様性クッキング（平成 22 年 10 月）

実施主体：愛知県

伝統野菜等を生かした料理の試食を通して、生物多様性とのつながりについて理解を深めるため、省エネやごみ削減を実践する、環境に配慮した料理を実演。

**COP10 スペシャル企画「動物園水族館 30 か所 いきものインターネット中継」
（平成 22 年 10 月）**

実施主体：IUCN-J、NHK、日本テレビ

日本全国の動物園や水族館 30 か所を結び、絶滅の恐れのある生きものたちをインターネット中継で紹介。COP10 のオープニングを飾り、その開催を多くの人に知ってもらい、わくわくドキドキ楽しいイベントを実施。

地球のいのち・交流ステーション（平成 22 年 10 月）

実施主体：愛知県

COP10 を契機として、県民、市町村等が生物多様性への理解を深め、生物多様性に配慮した地域づくりを推進していくため、多くの人が楽しく参加・体験できるイベントを開催。

文化と生物多様性（日本語、英語冊子）（平成 22 年 10 月）

実施主体：堂本暁子委員、生物多様性 JAPAN

日本の文化と関わりの深い、女性と生物多様性をめぐる問題の趣旨を広めるため、日本でいち早くこの問題に取り組んできた堂本暁子氏が、わかりやすく解説。

2010 年国際生物多様性年
イルカプロデュース COP10「まあるい地球コンサート」(平成 22 年 10 月)
実施主体: 国際自然保護連合、IUCN-J、中日新聞、東海テレビ放送、 サンデーフォークプロモーション、イルカ委員
歌を通じて、一人でも多くの方々に「生物多様性」が普及することを目的とし、また会場内に募金箱を設置し、その募金を IUCN を通じて「生物多様性」の普及啓発に努めた。

国際生物多様性年クロージング・イベント(平成 22 年 12 月)
実施主体: 環境省
国際生物多様性年年の国際的なクロージングイベント(閉年行事)を、COP10 議長国である日本で開催し、国際年における各国の取組や COP10 の成果等を世界にアピール。

2. 記念活動

グリーンウェイブ 2010 (平成 22 年 3 月～5 月)
実施主体: 環境省、農林水産省、国土交通省
5 月 22 日を中心として、青少年などが全国各地で植樹や植樹した樹木への水やりを行う活動と呼びかけた。

COP10 に向けた市町村リレー植樹 (平成 22 年 3～10 月)
実施主体: 愛知県内市町村
植樹を通じて、生物多様性についての関心と理解を深めるとともに、県内各地域が連携して COP10 開催気運を盛り上げるため、市町村の主催で行われる植樹会をリレー方式でつないでいく事業を展開。

「生物多様性みどり賞 (The MIDORI Prize for Biodiversity)」(平成 22 年 4 月～10 月)
実施主体: 公益財団法人 イオン環境財団
2010 年創立 20 周年を迎えた公益財団法人イオン環境財団は、生物多様性に関わる様々な分野で活躍している人々をサポートする国際賞「生物多様性みどり賞(The MIDORI Prize for Biodiversity)」を創設し、受賞者に贈呈。

国際生物多様性年映像化プロジェクト(平成 22 年 5 月～)
実施主体: 堂本暁子委員、生物多様性 JAPAN、(株)BS-TBS、(株)Green TV Japan、環境省
生物多様性とその重要性をわかりやすく伝える内容の映像を制作し、国際生物多様性の日(5 月 22 日)に合わせて BS 放送で放映するとともに、DVD 化して自治体等に配布し、小学生等の学習活動に寄与。

小さなもりを守り隊（平成 22 年5月～）
実施主体:愛知県
植樹等の環境活動に積極的に取り組んでいる幼稚園や保育園に「小さなもりを守り隊」として参加してもらい、幼児の生物多様性への理解を深める活動を実施。
あいち いきものキャラバン隊（平成 22 年5月～10 月）
実施主体:愛知県
COP10 の開催気運の盛り上げを図るとともに、生物多様性を守る取組を親しみやすく PR するため、参加型アトラクションや環境に配慮したグッズを活用して普及啓発活動を実施。
想いでつなごう！ COP10 おりがみプロジェクト(平成 22 年5～12 月)
実施主体:IUCN-J
COP10 のロゴを形づくっている“おりがみ”を使って COP10 会場を盛り上げると同時に、人々の想いをつなぎ、生物多様性(いのちのつながり)を大切にするきっかけを提供。
生物多様性国民運動関連事業「全国自然いきものめぐりスタンプラリー」 (平成 22 年7月～)
実施主体:環境省
各地の自然とふれあい、生物多様性に関して知識や理解を深め、具体的な保全活動につながる契機を得ることを目的とし、国立公園のビジターセンターなどで実施する自然体験プログラム等に参加してもらおうスタンプラリーを実施。
白山国立公園生物多様性ミニ展示&クイズ企画 「白山のいのち、つないでいこう！」「白山のいのち、さがしてみよう！」 (平成 22 年7月～)
実施主体:石川県(白山自然保護センター)
「白山の生物多様性」に注目した企画展を開催し、白山の豊かな自然環境や多種多様な動植物、白山で行われている調査や環境保全の取組を紹介することで、生物多様性についての理解を促進。
「地球のことはみんなで語り合おう」(平成 22 年 7 月～平成 23 年 1 月)
実施主体:生物多様性条約市民ネットワーク
インターネットメディアに市民の知見経験などが蓄積され、多くの市民が引用し新たな行動を育む、市民による生物多様性バーチャルシンクタンク企画。

「国際生物多様性年自然とのふれあい展示」プロジェクト(平成 22 年8～10 月)

実施主体: 国立公園サポーターズ、環境省

生物多様性に関して子どもたちが制作した絵画、ポスター、イラスト等の優秀作品の展示や、野生生物に関する写真展を開催。

国際生物多様性年ブックカバー配布プロジェクト (平成 22 年9～10 月)

実施主体: (財)自然公園財団

世界中で「生物多様性」への関心が高まる中、日本での国際会議開催を期に「生物多様性」について考もらうため、動物の親子をテーマとした美しい写真を使用したブックカバーの配布を実施。